

2023

9

ナイル

現代短歌ナイル

【今月の歌】

河内圭子、広井まさみ

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

湯河原大会報告／濱谷美代子

ひと夏の思い出 湯河原にて／橋本涼

7月号作品批評／宮本史一(心の花)

厩戸皇子は聖徳太子ではなかった／多羅空岳



NILE CAMPUS

291

伯梅閑話 — 十三代目団十郎襲名 —

小村井敏子（五代目神田伯梅）

コロナ禍で延び延びになっていた十三代目市川団十郎白猿襲名披露公演が、二〇二二年十一月、十二月に歌舞伎座で行われた。ちょうど、白内障の手術の準備やら、術後の一日四回、五分おきに三種類の目薬と格闘していて、行けなかった。襲名披露公演は、歌舞伎座のあと地方を回る。その小田原公演に行こうと誘われた。私の車で九時過ぎに七里ガ浜を出た。西湘バイパス下り線が工事中ということだったので、通行止めかと思つて早く出たのだ。が、パーキングを閉鎖しての工事。片側一車線になっていただけだった。早く着いたので、団十郎家の歌舞伎十八番「外郎売（ういろう売り）」で知られる小田原のういろうへ。松本豊子は、菓のういろうを買い、私はお菓子のういろうを買った。ういろうの店の隣の中華は定休日だったので、店内の喫茶でお抹茶と甘味でしばらくつろいだから、だるま料理店で寿司を食べた。それから、会場へ。早かったので会場の十数台しかない駐車場に止められた。小田原三の丸ホールは、車から見えるところに入り口がないので、三の丸ホールか迷ったが、車の入り口の角に交番があり、女性警官がいて、親切に教えてくれた。

演目は、舌出し三番叟・口上（休憩30分）勸進帳だった。大道具は変えない。能舞台の形。旅興行としてはなるほどと思った。

旅興行を観るのは初めてだった。旅だから、口上は、団十郎と四代目中村梅玉（高砂屋）の二人。歌舞伎座ですらりと名題役者が並ぶ口上とはわけが違う。すっきり、さっぱりしたものだった。

帰り道、お茶をして、おしゃべりして帰宅した。すっきり、日が暮れていた。